



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	12,113	1.2	179		157		170	
2022年3月期第2四半期	12,264		191		162		120	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 235百万円 (%) 2022年3月期第2四半期 243百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	51.17	
2022年3月期第2四半期	36.17	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	14,075	3,216	22.8
2022年3月期	14,452	3,451	23.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 3,215百万円 2022年3月期 3,450百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,000	4.8	290		250		270		80.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	3,400,000 株	2022年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	63,030 株	2022年3月期	63,010 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	3,336,973 株	2022年3月期2Q	3,337,014 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らぎ始め、行動制限の緩和や個人消費の持ち直しの動きなど経済社会活動に回復の兆しがみられました。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の長期化の影響に加え、為替相場における急激な円安に伴うエネルギー価格や原材料価格の高騰など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、原材料費やエネルギーコスト、物流コストなどの上昇が企業収益を圧迫しており、物価上昇に伴う相次ぐ値上げや景気の先行き不安からくる消費者の節約志向は一層厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や人手不足等による労働コストの上昇などの影響もあり、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を最終年度とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」において、「開発・調達・製造・物流・販売の連携強化を通じた相乗効果の創出」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおり、各重点施策の展開を積極的かつスピーディーに実行し、収益力向上と経営体質強化に努め、企業活動を推進してまいりました。

販売につきましては、2022年に発売70周年を迎えた当社オンリーワン商品である「花ソーセージ」のキャンペーン展開や「厚切りポークタン」や「厚切りカタロースハム」を新たに発売し、生活様式の多様化に対応した商品展開や新商品の開発など販売強化を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、121億13百万円(前年同四半期比1.2%減)となりました。利益につきましては、営業損失は1億79百万円(前年同四半期は営業損失1億91百万円)、経常損失は1億57百万円(前年同四半期は経常損失1億62百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億70百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億20百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、様々な食料品の値上げが続く節約志向が高まるなか、家庭用大容量商品としてウインナー群の大袋商品や新たに発売を開始した「厚切りポークタン」や「厚切りカタロースハム」などが堅調に推移いたしました。しかしながら、同業他社との価格競争の激化や市場への定着に時間を要した価格改定商品が伸び悩み、売上高は減少いたしました。利益につきましては、原材料価格の高騰や燃料価格上昇によるエネルギーコストの上昇があったものの、販売価格が上昇した事やコスト削減に取り組んだことにより、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は52億36百万円(前年同四半期比3.3%減)、セグメント利益(営業利益)は1億27百万円(前年同四半期比4.8%増)となりました。

食肉事業

売上高につきましては、国産・輸入牛肉ともに量販店向けの販売が低調に推移したものの、国産牛肉の販売単価の上昇や外食産業向けの販売が前年に比べ好調に推移したことなどにより、牛肉全体の売上高は増加しました。豚肉につきましては、取扱商品の見直しやブランド豚の販売強化を図るなど、国産豚肉の売上高は増加いたしました。その一方で、輸入豚肉は引き続き海外の現地価格高騰や為替変動等の影響により売上高は減少するなど、豚肉全体の売上高は前年同期を下回りました。

その結果、売上高は68億77百万円(前年同四半期比0.4%増)、セグメント損失(営業損失)は26百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)26百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産等の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億77百万円減少の140億75百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2億26百万円減少の56億91百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金1億5百万円、商品及び製品1億19百万円、原材料及び貯蔵品45百万円の増加と現金及び預金4億97百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億50百万円減少の83億83百万円となりました。主な要因は、建物及び構築物65百万円と投資有価証券1億4百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億41百万円減少の108億59百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1億3百万円増加の70億77百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金1億21百万円の増加と未払法人税等12百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億45百万円減少の37億81百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億26百万円と退職給付に係る負債73百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億35百万円減少の32億16百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金77百万円の減少と利益剰余金1億70百万円の減少によるものであります。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ4億97百万円減少の16億86百万円(前連結会計年度比22.8%減)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、1億60百万円(前第2四半期連結累計期間は70百万円の資金獲得)となりました。主な要因は、減価償却費2億27百万円、売上債権の増加額1億5百万円、棚卸資産の増加額1億56百万円、仕入債務の増加額90百万円と税金等調整前四半期純損失1億57百万円、退職給付に係る負債の減少額60百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億80百万円(前第2四半期連結累計期間は47百万円の資金使用)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億71百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億56百万円(前第2四半期連結累計期間は1億98百万円の資金使用)となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出1億26百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想については、2022年5月13日に公表したものを修正いたしました。詳細は本日別途公表いたしました「2023年3月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値の差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,354	1,856
受取手形及び売掛金	2,378	2,483
商品及び製品	894	1,014
仕掛品	51	43
原材料及び貯蔵品	211	257
その他	40	48
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	5,918	5,691
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,415	2,350
機械装置及び運搬具（純額）	662	719
土地	2,888	2,888
リース資産（純額）	105	87
建設仮勘定	8	3
その他	62	61
有形固定資産合計	6,143	6,111
無形固定資産	123	112
投資その他の資産		
投資有価証券	2,055	1,950
その他	316	312
貸倒引当金	△103	△102
投資その他の資産合計	2,267	2,159
固定資産合計	8,534	8,383
資産合計	14,452	14,075

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,080	2,202
短期借入金	4,079	4,079
未払法人税等	47	34
賞与引当金	154	155
その他	613	606
流動負債合計	6,974	7,077
固定負債		
長期借入金	1,779	1,653
役員退職慰労引当金	340	348
退職給付に係る負債	1,511	1,437
その他	395	342
固定負債合計	4,026	3,781
負債合計	11,001	10,859
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△1,256	△1,427
自己株式	△80	△80
株主資本合計	2,857	2,686
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	604	527
退職給付に係る調整累計額	△11	1
その他の包括利益累計額合計	593	528
非支配株主持分	0	0
純資産合計	3,451	3,216
負債純資産合計	14,452	14,075

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	12,264	12,113
売上原価	10,352	10,161
売上総利益	1,912	1,952
販売費及び一般管理費	2,103	2,131
営業損失(△)	△191	△179
営業外収益		
受取利息及び配当金	25	26
不動産賃貸料	27	27
その他	26	17
営業外収益合計	79	71
営業外費用		
支払利息	34	33
不動産賃貸費用	13	13
その他	2	3
営業外費用合計	50	49
経常損失(△)	△162	△157
特別利益		
固定資産売却益	54	-
特別利益合計	54	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△107	△157
法人税、住民税及び事業税	13	12
法人税等合計	13	12
四半期純損失(△)	△120	△170
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△120	△170

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△120	△170
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△130	△77
退職給付に係る調整額	7	12
その他の包括利益合計	△122	△64
四半期包括利益	△243	△235
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△243	△235
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△107	△157
減価償却費	263	227
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	7	8
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△2
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△56	△60
受取利息及び受取配当金	△25	△26
支払利息	34	33
固定資産売却益	△54	-
補助金収入	△12	△2
売上債権の増減額 (△は増加)	△26	△105
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△80	△156
仕入債務の増減額 (△は減少)	221	90
その他	△63	21
小計	96	△130
利息及び配当金の受取額	25	26
利息の支払額	△34	△33
補助金の受取額	1	2
法人税等の支払額	△17	△25
営業活動によるキャッシュ・フロー	70	△160
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△161	△171
有形固定資産の売却による収入	121	-
投資有価証券の取得による支出	△7	△7
無形固定資産の取得による支出	△1	△1
その他	1	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47	△180
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△161	△126
リース債務の返済による支出	△36	△29
自己株式の取得による支出	-	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△198	△156
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△175	△497
現金及び現金同等物の期首残高	2,515	2,184
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,339	1,686

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,416	6,847	12,264
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,416	6,847	12,264
セグメント利益又は損失(△)	121	△26	94

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	94
全社費用(注)	△286
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△191

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,236	6,877	12,113
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,236	6,877	12,113
セグメント利益又は損失(△)	127	△26	100

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	100
全社費用(注)	△280
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△179

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。